

◆ 2020 年度 活動 報告 シ ー ト ◆

団体名：NPO 法人 いろいろ生きものネット埼玉

23A-16

代表者：代表理事 脇坂純一

URL : <https://iinenet101.jimdofree.com/>

1. 活動が必要とされた状況

- ① 里山保全及び外来植物の調査・除去活動：狭山丘陵の保全活動は、継続的な取組が必要。外来植物市民調査も継続が重要。
- ② 生物多様性保全の普及啓発活動：住民の理解と活動を促すためには、効果的な広報などが求められる。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

① 狭山丘陵の里山保全及び外来植物の除去活動

・里山保全活動は、「奇数月の最終日曜日に実施」というルールを作り、年6回（コロナ対策と雨で2回中止）下草刈り、枯損木の伐採などを実施した。また、カシノナガキクイムシの調査を行い、被害木を発見した（参加者3～5人）。



カシノナガキクイムシ調査の様子

・自発的市民調査を初めて実施した。テーマは既存のデータが乏しい

外来植物の開花時期調査（参加者20人）。

・原市沼川の特定外来生物オオフサモの除去活動は、様子を継続的にモニタリングした（参加者延べ10人）。

② 生物多様性保全の普及啓発活動



サイエンスカフェ

・R2/12/11に、「レッドリストは種の多様性保全に貢献しているか？」をテーマに第2回サイエンスカフェをオンラインで開催した（参加者30人）。

・R3/2/6に「クビアカツヤカミキリ～その後の蔓延と対策～」をオンラインで開催した（参加者70人）。

・R2/11に生きもの通信第8号を発行した。

3. 活動の成果

・緑の森博物館の当団体管理地（0.9ha）の里山整備ができた。

・サイエンスカフェでは、オンラインによる開催のノウハウを得ることができた。また、種々のテーマでサイエンスカフェができる活動の継続性に自信が持てた。

・フォーラムでは、オンライン開催によって県外からも相当数の参加者を得た。またクビアカツヤカミキリの防除方法を詳しく紹介し、市民活動の重要性も広報できた。

4. 今後に残された課題

・クビアカツヤカミキリ、カシノナガキクイムシ対策のフォローアップ。

・里山保全活動は整備の方向性を再検証すること。また、参加者が里山保全活動の全体像を十分に理解、体験、伝播できるようになること。

・多角的な情報発信役をするための自らの活動の強化（対象の拡大、実践・研究・モニタリングの深化、活動分野の多角化など）を図っていくこと。当面は市民調査を継続的に実施してノウハウを蓄え、情報発信を行いつつ定着させること。